第 41 回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会　参加報告

小山龍之介

目次

1.はじめに
2.大会概要
3.大会テーマ
4.研修会
5.担当試合
6.最後に





1.はじめに

8 月 18 日から 8 月 22 日の 5 日間にわたり、北海道で開催された第 41 回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会の参加報告をさせていただきます。

日頃よりご支援・ご指導いただいている関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に、心より感謝申し上げます。また、大会の開催・運営にご尽力いただきましたすべての大会関係者の皆様にも、厚く御礼申し上げます。

2.大会概要

大 会：第 41 回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

開催期間：2026 年 8 月 14 日（金）～2026 年 8 月 24 日（月） ※ラウンド 32 から準決勝に参加

会 場：北海道

3.大会テーマ
審判チームの連携によるフェアで安心・安全、そして円滑な試合運営の実現
＜期待したい効果・結果＞
・4局面の連続性（トランジション）とチーム戦術の意図を理解したレフェリング
・次のプレー（局面×球際）を見据えたポジショニングと争点把握
・予測に基づく一貫性のある判定とゲームマネジメント

3C
・Communication
・Cooperation
・Concentration
3UP
・Level up
・Skill up
・Grow up

4.研修会
テーマ
次のプレー(局面×球際)の予測

サッカーの4局面
攻撃、攻撃→守備(切り替え)、守備、守備→攻撃(切り替え)
守備→攻撃に焦点

攻撃の判断基準となる2つの守備状況
・相手の守備が整っていない→素早い切り替え→カウンター
・相手の守備が整っている→ビルドアップ→チャンスメイク
カウンターのシーンの映像を視聴、欲しい情報は何か
①スペース　前方にどれだけスペースがあるか。例：広い、狭い、DFラインの背後、逆サイド
②人数・配置　攻撃側競技者と守備側競技者の位置と数　例：数的優位、守備側競技者が中央にいない
③味方の動き　前方にいる選手の位置・動き出し　例：速度(推進力)
④守備の状態　守備側競技者の向き・戻り・バランス　例：ゴール方向に走っている、守

備体系が整っていない
⑤ボール保持者　身体の向き・速度(推進力)・プレッシャー　例：奪って前を向けた、すぐに運べる

・4局面の理解が、次のプレー(局面×球際)を見据えた準備と予測のために必要である。
・あなたが「今」ほしい情報は何か。
・冷静にファウルの判断をするために、プレーの予測に基づいたポジショニングが必要になる。

情報をいつ集めるのか捨てるのか拾うのかを考えなければならない。

スポーツとは「楽しくなければスポーツではない」
「sport(s)」　　「運動競技」　←楽しみ・遊び・気晴らし「play」
　↑　　↑
「disports」(英語)　　「遊びたわむれる」
　↑　　↑
「desporter」(仏語)　　「気晴らしをする」
　↑　　↑
「deportare」(ラテン語)　「別の場所に持ち去る」→「憂いを持ち去る」

サッカーとは
サッカーは人生の鏡である
人生では、目標を持ち、目標に向かって努力し、個々の役割を果たして社会貢献する喜びを得る。サッカーも、理想のゲームをするという目標を持ち、目標に向かって努力し、個々の役割を果たしてチームに貢献することで喜びを得るスポーツである。そして、一人では何もできない。

5.担当試合
【ラウンド32】
日時：2026年8月18日（火）11：00 kickoff
会場：札幌サッカーアミューズメントパーク人工芝サッカー場
対戦：JFAアカデミー福島U-15 － 北海道コンサドーレ札幌U-15
割当：主審 小山龍之介 / 副審 宮井麗央氏・森雅仁氏 / 第4審 槻本淳成氏
インストラクター　吉野内浩志氏

【振り返り】

自分自身の 1 発目の試合であったため、試合前は緊張していました。また、新競技規則を自分自身が初めて適用する試合でもありました。グループステージの審判団とトーな円との審判団はがらりと入れ替わります。その中でチームに対して違和感なく、カウントのタイミングを見計らっていました。インストラクターの方には、試合の文脈を読み、動きに反映していると言っていただきました。その中で、アドバイスとして本当にそのポジションで十分なのか、さらに良いポジションはないかと言っていただきました。試合としては、1－0 でお互いにゲームに集中して取り組んでくれました。第 4 審はいつも一緒にしている関西の人間だったが、副審の人たちは初めてであったが、トラブルなく協力出来ました。

【ラウンド 32】
日時：2026 年 8 月 18 日（火）13：00 kickoff
会場：札幌サッカーアミューズメントパーク人工芝サッカー場
対戦：鹿島アントラーズジュニアユース － 鹿島アントラーズつくばジュニアユース
割当：主審 猪狩信人氏/ 副審 槻本淳成氏・太田碧飛氏 / 第 4 審 小山龍之介
インストラクター　吉野内浩志氏

【振り返り】
先程、1 試合目からの連続で第 4 審に入りました。対戦カードとしてはどちらも鹿島にゆかりのあるチームであったため、バチバチでベンチの盛り上がりが予想されたので、いつでも対応のできる準備をしていました。第 4 審の役目は試合を通してしっかりと果たすことが出来ました。
【ラウンド 16】
日時：2026 年 8 月 19 日（水）13：00 kickoff
会場：白旗山競技場サッカー場 A
対戦：サガン鳥栖 U-15 － 川崎フロンターレ U-15 生田
割当：主審 小山龍之介 / 副審 髙橋陽斗氏・西川博康氏 / 第 4 審　國藤翔氏
インストラクター　山際将史氏

【振り返り】
まず、この試合は途中で雷雨により長時間の中断が発生しました。1 試合目を見ているときから天気は怪しかったです。そこで、マッチミーティングの際にはもし雷で中断した際の避難場所はどうするなどいった対応について聞いていたので、実際に試合を止めた際も両チーム選手、スタッフともにスムーズな移動を行ってくれました。試合は、すごく頭を使いながらのポジショニングになりました。前半と後半では動きの仕方を変えました。前半は争点に対して近づき、見ようとしていました。しかし、川崎フロンターレ側にはドリ

ブラーがおり、邪魔になってしまう機会がありました。そこで少し距離を取って周りの状況をしっかりと把握できるポジションを取りました。後半は自分の中ではスムーズに動くことが出来ました。インストラクターの方からは、アシスタント側近くの PA 内付近の監視に関してです。中、外の判断は、主審がすべきである。もしドリブルで侵入しようとしているのであれば、レフェリーサイドにとどまらず、アシスタントサイドにも位置取ることが大切だと言っていただきました。試合でファウルをした選手に対しての注意が高圧的であると言われました。もちろん注意は必要であるが、自分から寄ったり、落ちあったり様々なパターンを取り入れると良いと言っていただきました。

【準々決勝】
日時：2026 年 8 月 21 日（金）13：00 kickoff
会場：白旗山競技場サッカー場 B
対戦：鹿島アントラーズジュニアユース － 横河武蔵野ＦＣ U-15
割当：主審 辻 大楽氏 / 副審 伊藤唯翔氏・小山龍之介 / 第 4 審　安井貴之氏
インストラクター　吉野内浩志氏

【振り返り】
主審は学連でもアカデミーでも同じ辻君で副審は学連の先輩であり、大学の先輩でもある伊藤君でした。まずは、全国大会の舞台で関西にゆかりのある人たちで組めたのはうれしかったです。今大会初めての副審でしたが、ラインキープを心掛けてオフサイドの監視を行いました。大きな問題もなく試合を終わらせることが出来ました。
【準決勝】
日時：2026 年 8 月 22 日（土）11：00 kickoff
会場：札幌厚別公園競技場
対戦：横浜Ｆ･マリノスジュニアユース － サンフレッチェ広島 F.C ジュニアユース
割当：主審 小山龍之介 / 副審 猪狩信人氏・岩佐 丈氏 / 第 4 審　髙橋 陽斗氏
インストラクター　佐藤 光雄氏

【振り返り】
まずは、全国大会の準決勝の主審に選ばれたことはうれしかったです。自分自身が選手時代では考えらない舞台に立てたことは、審判を続けてきてよかったと思いました。この試合でのファーストファウルは PK でした。しかも事象は PA 内のアシスタント側でした。もし、今までの自分であればすでにレフェリーサイドに行き、見えていなかったかもしれません。大会期間を通して成長できたシーンだったと思います。3 点目の得点となった FK を取ったファウルに関しても良いポジションで笛を吹くことが出来ました。アドバイスとしては PA 付近のスローダウンのタイミングです。どうしてもトップスピードでいると事象

を正確に把握することが出来ません。

6.最後に

　自分自身にとって初めての全国大会への参加でした。とても緊張はありましたが、最後までやり遂げることが出来ました。他地域の審判員とも積極的に関わることが出来ました。新たな仲間を作ることが出来ました。また、再会することができた審判員もいました。すごく繋がっているのだなと感じることが出来ました。これからもサッカーを通じた出会いを大切にしていきたいと思います。他地域の審判員を直接見ることで自分自身も刺激になり、より一層頑張りたいと共にまた全国でレベルアップした状態で出会いたいなと思います。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えていただきました関係者の皆様、日頃よりご支援・ご指導いただいている皆様、そして大会の開催・運営にご尽力いただきましたすべての大会関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。